

ひろば

Vol.134

HIROBA

発行日：2017. 6. 1 発行人：田沼 武能

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 TEL & FAX 03-5371-2732 (事務局)

<http://www.kougei-dousoukai.jp> dousoukai@kougei-dousoukai.jp (受信専用)

卒展×同窓のつどい
卒業制作展
学位授与式・卒業祝賀会
ひろばのページ



東京工芸大学同窓会主催 卒展×同窓のつどい

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2017」が、リニューアルされた中野キャンパスで開催されることに合わせて、同窓会として後輩達への激励と、旧交を温める空間の提供を目的に「卒展×同窓のつどい」が企画されました。

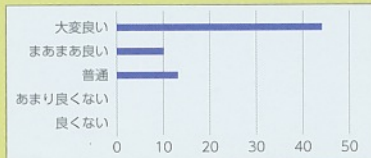
卒展開催期間(2017年2月24日～2月26日)の2日目、2月25日(土)に2号館地下1階プレイス(学食)において、軽食と飲み物を用意し、同窓生と恩師、そして後輩達が「おしゃべりの場」として気軽に参加できる形で会は催されました。



卒展 × 同窓会満足度

	人数
大変良い	44
まあまあ良い	10
普通	13
あまり良くない	0
良くない	0
合計	67

アンケート回収数113枚



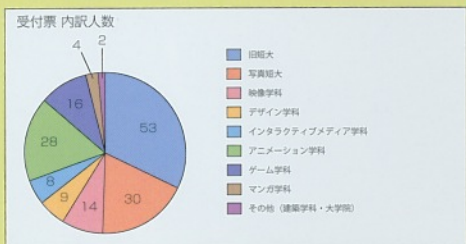
卒展×同窓の集い アンケート調査

その他コメント欄

- ・料理が美味しかった。(10代)
- ・告知・お酒が足りない。(20代)
- ・とても有意義だった。来年もぜひ参加したい(20代)
- ・またこのような機会があると嬉しい。(20代)
- ・普段、中で集まらないので良き交流の場になった。(20代)
- ・同期と会う丁度良い機会だった。(20代)
- ・作品がとても素晴らしく楽しい時間を過ごせた。(30代)
- ・新校舎が素晴らしい。(30代)
- ・校舎が全面リニューアルされていて、場所がよく分からなかった。(40代)
- ・年代を感じつつ、感動した。(60代)
- ・学生が大人しい。洗練されすぎている。(60代)
- ・またお邪魔したい。(80代～)

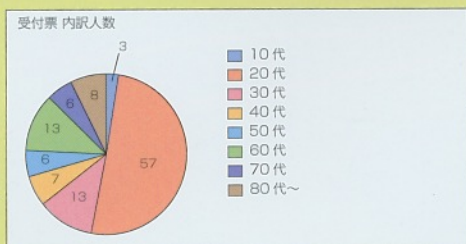
卒業生受付票内訳

	人数
旧短大	53
写真学科	30
映像学科	14
デザイン学科	9
インタラクティブメディア学科	8
アニメーション学科	28
ゲーム学科	16
マンガ学科	4
その他(建築学科・大学院)	2
合計	164



アンケート年代別内訳

	人数
10代	3
20代	57
30代	13
40代	7
50代	6
60代	13
70代	6
80代～	8
合計	113



「卒展×同窓のつどい」に寄せて

長らく外部の会場で開催されてきた芸術学部卒業・大学院修了制作展が今年度より中野校舎のホームグラウンドに帰ってきた事。昨年9月に90周年記念大会が新しくなった中野のキャンパス内で開催され、大盛況であった事。この二つの催しをドッキングさせたのが「卒展×同窓のつどい」でした。初めての試みなので、卒業生がどれだけ参加してくれるか、広くて素晴らしい会場なので、集まりが悪く閑散とした雰囲気になりはしないかと主催者側として相当心配しました。

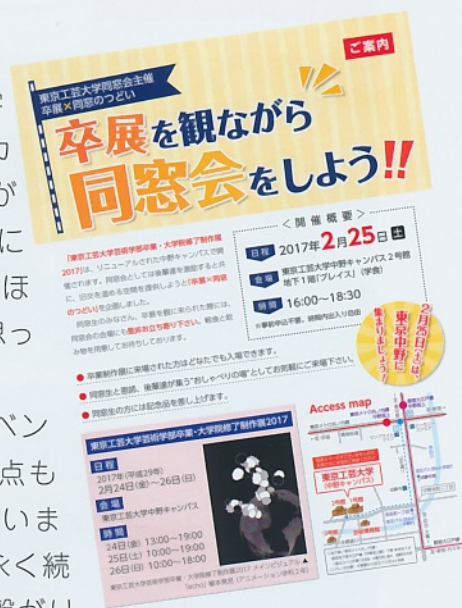
しかし開催時間中はほぼ常時盛況で、広い会場のあちらこちらで、「ヤー！久しぶり！」「元気してるかい！」などと世代を超えて飛び交う声を耳にしてホッとした次第です。

若い卒業生、短大時代の卒業生、恩師、現役の先生、学生など、幅広い層のご参加を頂きま

した。学部になって新しくできた学科など、いろんなカテゴリーの卒業生が参加したイベントになり当初の目的がほぼ達成出来たかと思っています。

初めての企画イベントで行き届かない点多々あったかと思いますが、この催しが永く続き、同期生の横の繋がりそして、先輩後輩の縦の繋がりが一層深まればと期待しています。

安達 洋次郎(39期)



盛大に、そして楽しく……



「卒展×同窓のつどい」開催



卒業制作展



義江学長



オープニングセレモニーに集まった学生・教職員



田邊卒展委員長



吉野芸術学部長



クリエイティブ大賞：アニメーション学科2年 榎本 晃児さん

卒展委員長のことば

2月24日から開催された東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2017は、約3,400人の方々にご来場いただき、盛況のうちに3日間の日程を終える事ができました。

今回は7学科が揃ってからの初めての学内会場開催となりました。私が卒業制作展委員長を拝命してからこれまでの10年の間に卒展のあり方も大きく変わりました。2つの新学科が設置されたことに加え、時代の流れに呼応して制作された学生の作品形態も多様化していくという状況が年々顕著になっていき、会場の選定の条件もだんだん難しくなっていました。

そのような中で、新しい時代を担うクリエイターを育成する本学の卒業制作展はどうあるべきか、委員会ではできるだけ良い形での展示形態を実現するために、毎年委員の教員そして学生課の職員と意見を出し合い、知恵を絞ってまいりましたが、今年、工事が全て完了した新校舎での満を持しての学内開催が実現するに至り

ました。

会期を終えた今、学内開催ならではの利点や優位点もたくさんあることが分かりました。また一方、改善していかなければならない問題も多々ありました。

ただ、私が強く感じましたのは、学生達が学んできたこのホームグラウンドでの開催は、きっとそれぞれのこれまで過ごして来た学生生活への思いも一緒に展示されているのだということです。来場された方々にも、彼らのその思いが伝わったのであれば幸いです。

今後も続いていく東京工芸大学4年間の集大成と言える卒業・大学院修了制作展が、未来のメディア芸術を明るく照らすものである事を願ってやみません。

卒業制作展委員会委員長

デザイン学科

田邊 順子





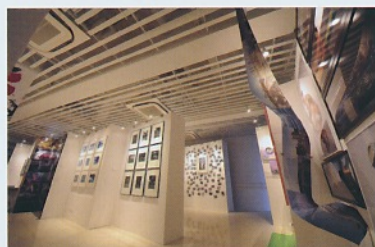
対談



吉野芸術学部長と
写真家・本城 直季
氏(右)



写真学科



卒業のことば

小中高と学校は休みがちでした。それなのに、春休みになっても、大学には遊びに行っています。

何をしているかというと、やっぱり写真を焼いています。厚木の頃、フィルム現像は授業の合間に慌てて仕上げていましたが、最近は他に用事もないので、のんびりやっています。

後は、印画紙がたくさん余っているので、暗室に入ろうと思っています。新しくプリントを作って、雑巾掛けや着色をしたいです。

でも一番は、古典技法です。島根県立美術館で見た、ゴムプリントに憧れました。卒業制作もゴムプリントで制作したのですが、もっと物凄いものを作ってやろう、

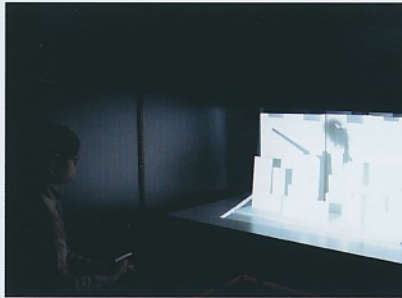
写真学科 中島 優子

と現在奮闘中です。卒業前に仕上げ、お世話になった先生方に見ていただけたら幸せだなと思っています。

写真制作は、不思議と年々面白くなってきていて、4年間で今が楽しさのピークです。一緒になって写真で遊んでくれる人がいて、本当に良かったなと思います。

社会に出てからも、今くらい直向きに、何かを楽しみたいと思える気持ちを、保ち続けたいです。とりあえず、4月からは魚拓を始めようと思います。





・上映会場はコチラ!

卒業のことば

この大学で過ごした時間はあっという間で、気づけば卒業する年になっていました。私は三重から上京してきたので、入学当初から不慣れなことばかりで慌ただしく、生活に慣れてきたかと思えば制作に慌ただしく、常に何かに追われていた気がします。

そんな私が大学生活で大切にしていたのは人との繋がりで。家族や友人はもちろん、サークル活動の中で出会った外部の人や遊びに行った先で仲良くなった人、様々な方とお付き合いをさせて頂きました。そのおかげが、直々にライブスタッフを依頼されたり、サークルで

映像学科 愛甲 涼音

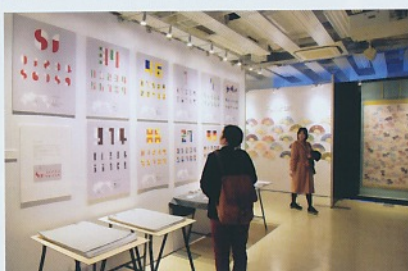
イベント出演をしたり、MVを制作させて頂いたり、じっと待っているだけではできなかつたらう経験を沢山させて頂きました。これらの経験で得たものは社会に出て役に立つことばかりだと思います。

そして私は人との繋がりが非常に重要になる職に就くことになったので、この大学生活で得た経験を生かし、これからも邁進していきたいと思っています。



デザイン学科

グラフィックデザイン領域



卒業のことば

デザイン学科 グラフィックデザイン領域 佐藤 千祐

「デザイナーになる夢を諦めたくない。デザインを学びたい。」そう気持ちを決め、この大学に入学しました。工芸大の先生の方で学び、仲間と過ごした大学生活は、かけがえのない大切な時間です。

課題や自主制作、委員会活動、就職活動、あらゆることに対し自分なりの目標を決め取り組んできましたが、そこには自分自身と向き合わなければなりません。うまくいかず、苦しくて逃げ出したくなる時もありましたが、そういう時こそ反省し次に活かすことで、再び前を向き歩き出すことができました。そして、先生のお言葉に気持ちを奮い立たせ、先輩方の姿を目標に、この4年間過ごすことができました。

これまでの集大成である卒業制作を通して、大変で

楽しい制作、様々な方からの意見があるからこそものづくりはやめられないなと思いました。自分自身に納得し、笑顔で卒業を迎えることができとても嬉しいです。

工芸大で過ごした大切な時間を胸に、春からは夢であったデザイナーとして働き始めます。私の夢を応援してくれた家族、支えていただいた先生方に心から感謝しています。いつの日か、笑顔で再び会えるように…これからより一層努力をして踏ん張り、少しずつでも目標に向かって歩き出していきます。



デザイン学科

イラストレーション領域



卒業のことば

デザイン学科 イラストレーション領域 匝瑳 龍暉

東京工芸大学に入学したきっかけは「迷い」でした。美術高校でデッサンや彫刻に取り組んできましたが、未だ自分の進むべき道を見つけられないでいました。そこで2年間は各分野の基礎を学び、3年生以降に専門分野に進むカリキュラムをもつ工芸大に惹かれたのです。そうして他分野の演習や講義を聞いていくうちに、自分の進むべき道が分かり、迷いは無くなっていきました。同時に、何事にも興味関心を持ち、調べていく癖が付いてきました。世の中に存在する全てが自分の糧になると、気づくことが出来たのです。

また、3年生からのイラストレーションの授業は、私の絵に対する価値観を大きく変えるものになりました。特に3年生前期の授業で「街と関わるキャラクターを作

る」という課題に取り組んだ際には、中野ブロードウェイと関わって作品制作を行いました。そこから、作品は一人では完結せず、他人や社会と関わっていくことで完成していく、という事を授業を通して知る事ができました。中野ブロードウェイの方達、またブロードウェイを通じて知り合った方々には、今でも助言をいただいています。

この4年間私をサポートしてくれた親、教授、親友に感謝し、これから描く作品を通して恩返しをしていきたいと思います。ありがとうございました。



デザイン学科

映像情報デザイン領域



卒業のことば

デザイン学科 映像情報デザイン領域 渡邊 万里奈

「一人ではなく仲間と学んだ4年間」

私にとってこの4年間は時間が足りないくらいあっという間で、深い学びと最高の仲間たちに出会えたかけがえない時間となりました。「人を笑顔に出来ることを芸術分野から身につけたい」と入学したデザイン学科。1・2年時は授業内容の幅が広がったため、とにかく興味のあるものは殆ど受講し、学びを通してひたすら自分のデザイン手法を摸索していました。どれも学ぶほど面白くそして難しい、一人で考えていると制作で失敗したり、悩んだり悔し涙を流す事もありました。そんな中で自分の方向性を見つけられたのは、尊敬できる先生や共に学べる仲間に出会えたからだと思います。特に仲間と協力し、繰り返し評価や相談をしあう、時には喧嘩も…

刺激し合い高めあえる人たちがいたことで、自分なりの手法と目標を持って頑張ることができました。3・4年のゼミも同様で、仲間とライバルの同期や前をいく先輩、追いかけてくる後輩と共に切磋琢磨して、常に前へ進めたからこそ毎日が充実し、「楽しかった、最高だった」と言う思いで卒業を迎える事が出来たのだと思います。この大学生活で得た仲間を大切に、新しくスタートする社会人生活でも多くの人と関わりながら成長していきたいと思っています。



デザイン学科

空間プロダクトデザイン領域



卒業のことば

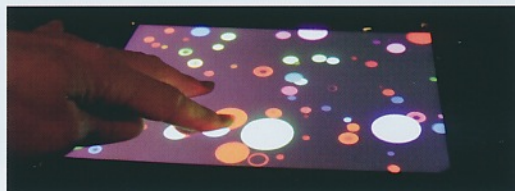
デザイン学科 空間プロダクトデザイン領域 永田 洸樹

私は東京工芸大学に入るまで、デザインというものに全く触れたことがありませんでした。デザインに少し興味はあったものの、この大学に入った理由の大半は東京での独り暮らしに憧れがあったからです。入学して間もない頃に見た、憧れだった東京の街並みは想像を遥かに超えていました。様々な時代に生まれた建築物がひしめき合い、場所によって雰囲気や人柄も違う、まるで「国内の外国」でした。そんな環境の中で私は空間デザインに興味を持ち、3年次、空間デザイン研究室を選択しました。私はそこで出会った教授、仲間たちにとっても影響を受けました。教授からは様々な視点からのアドバイスや提案を頂き、仲間同士では意見交換をよくしました。作品の発表が終わった日などは、教授含め研究室全員で

朝まで飲み明かしたりなど、楽しいイベントもたくさんありました。時には真面目に、時にははっちゃけ、研究室の絆は深まっていきました。今ではとても良い思い出であり、自分自身の力になっています。私は、デザインはひとりではできないと思っています。今あるこの出会いこそ、デザイナーとして社会に出た時、自分だけの武器になると思います。その出会いをくれたのは東京工芸大学です。大学生活で学んだことを胸に、社会人として生きていこうと思います。4年間、ありがとうございました。



インタラクティブ メディア学科



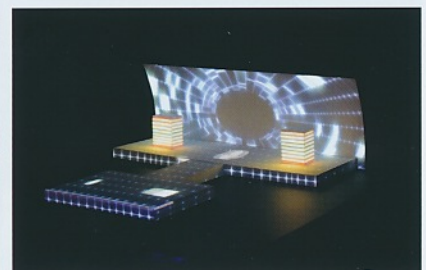
卒業のことば

インタラクティブメディア学科 織田 健吾

私は入学以前、現在所属している3DCG&エンターテインメント研究室の過去の卒業研究作品を目にする機会がありました。そこで生き生きと動くキャラクター達を目にし、自分も3DCGを学んで、見てくれる人をワクワクさせる作品を作ることを目標に、この大学に入学しました。3年次から研究室に所属し、本格的に3DCGの勉強を始めました。1年も経たないうちに就職活動が始まってしましますが、その時の自分は3DCGの技術力があまりありませんでした。ですから3~4年次は毎日研究室に残って3DCGの勉強に励みました。研究室の同期や後輩もよく研究室にいたので、楽しみつつ3DCGの勉強ができたのはいい思い出です。就職活動を無事に終える事が

でき、入学以前からの目標だった卒業制作が始まりました。大学生活最後の制作になるので、今まで以上に力を入れていました。なかなか厳しいスケジュールでしたが、入学当初の目標を胸に頑張りました。先生には何度も作品を見て頂きご指導を受け、色々とお世話頂き、大変感謝しています。結果、自分の中でも納得の行く作品が制作でき、加えて学部賞まで頂け大変嬉しかったです。今後も目標を持ち続けて作品を制作していきたいです。





卒業のことば

大学に入学してから、すでに4年が経つのかと思うと長いようで短い学生生活だった。入学当初は自分自身が何をしたいのかもわからず、ただ大学と自宅を往復していた覚えがある。中野キャンパスに移ると次第に自分の制作のために使える時間が増えてきたため、色々多くのことを意識しながら行動することが多くなった。入学当初からもっと多くの事を意識しながら課題をこなしていれば、さらに違う考えを持つことが出来たかもしれないと思う。意識しながら一枚の画を作り上げるのと、授業の課題だからと、10枚の画を作り上げるのでは大きな違いがある。ただ、どちらが自分自身のためになるかは言われただけではわかったつもりでも、実際には何も

アニメーション学科 今井 洸暉
わかっていなかった。甲子園常連校の監督さんの言葉に「つもり積もって、なにもない」という言葉がある。わかったつもり、やったつもり、言ったつもり、自分だけいい気になって出来た気になっていると後で足をすくわれることが何度もあった。やった、出来たいい気になるのではなく、次にやるときには過去の経験を意識し、次のテーマを考えながら行動していくことが大切だと考えさせられることの多い学生生活だった。





卒業のことば

あっという間でした。

実際、4年という月日はなかなかの時間ですし、きっと体感している間は相応の長さを感じていたと思います。けど、いざ過去を振り返ってみると本当に短くて、特に卒業を目前に自覚してからの加速度は酷いものでした。とにかく足りない。厚木にいた頃感じていた余裕は一体何だったのか。大学生の、それも後半になってやっと、本当の意味で時間は有限だと気付いた気がします。

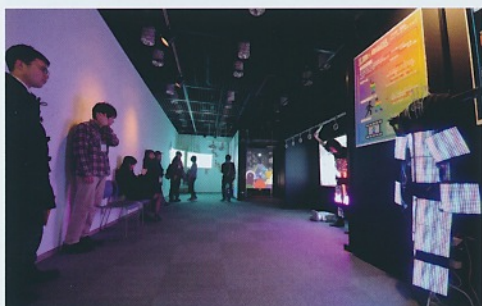
その短くも長い時間の全てをこの大学で絵を描くことに費やせたことは、自分にとって時間以上の価値になりました。やりたかったことが全てできたわけでもないし、後悔も数え切れません。それでも、絵に対する漠然とした「好き」という思い、自分の将来…いろんなもの

マンガ学科 大野 明加音

と向き合って、自分なりに答えを出し将来を決めることができ、なんだかんだ成長しているんだと感ずることができました。実感できるって、とても大きなことだと思うのです。

この大学に来て出会った友人たち、先生方には本当にお世話になりました。おかげでこの4年間心の底から楽しかったと、自分の選択は間違っていなかったと断言できます。卒業が名残惜しいですが、自分の決めた道を精一杯突き進んで行こうと思います。





卒業のことば

私にとってこの4年間はあっという間の出来事でした。何も考えずに過ごした1年次、現実には躓きそうになった2年次、就職のことを考え始めた3年次、就職活動と卒業制作で頭いっぱいになってしまった4年次と、時間はすぐに過ぎ去っていきました。

入学当時の私はゲーム会社に入りたいという願望は持ち合わせていませんでした。ただゲームが好きだからという理由と、学科に置いてあるアーケードゲームで遊べるのだろうという軽い気持ちでの入学でした。しかし周りにはゲーム会社を強く希望している人ばかりで、その夢に向かって学ぼうという姿勢に当時の私は強いプレッシャーを感じてしまいました。2年次の初めてのチーム制作でそれが表面化し、努力してきた人たちの力の

ゲーム学科 今川 楓子

差が歴然としているのがわかり、挫折しかけました。しかしそれでもやってこられたのは、切磋琢磨しあえる友人たちや、厳しくも丁寧に教えてくださった先生方のおかげであると今だから思えます。道を間違えず、挫折せず、私は最後までこまで来られたのです。

この春、ゲーム関連の会社に入社します。不安ではありますが、この4年間で学んできたことを無駄にしないためにも精一杯やっと思っています。



大学院発表会



卒業のことば

大学院 メディアアート専攻写真メディア領域 橋岡 慶嵩

工芸大で過ごす6年間気づけばあっという間でした。大学に入った当初私は写真に対する知識があまりない状態から始まりました。最初の厚木での2年は知識を詰め込むことに必死だったと思います。3年になり自分の「今やりたい制作って何だろう。」ということを考えるようになりました。周りにいる様々な人たちと会話することにより、今でも続くテーマを見つけることができました。4年になり制作を続けているうちにもっと学び制作をしたいと思い大学院に入る決意をしました。

大学院では留学生の方々と出会うことができました。学科や国を越え学び友人になれたことは、工芸大の大学院でしかないことで、これからも友人である彼らと交流できたこと人生においても大きなことのように思えます。



いろんなところで支えて貰った先生、友人達に感謝を。本当にありがとうございました。

平成28年度 学位授与式・卒業祝賀会

2017年3月23日、中野サンプラザで平成28年度学位授与式が執り行われました。式典の後には、後援会と同窓会共催の卒業祝賀会が開催され、大いに盛り上がりました。

学位授与式で同窓会田沼武能会長は、これから社会に羽ばたいていく若い卒業生に祝辞を述べました。座右の銘である「夢なくして計画なし。計画なくして実行なし。実行なくして成功なし。」「仕事が楽しければ人生は極楽。仕事が義務

ならば人生は地獄。」という二つの言葉を引用して、失敗を恐れず夢をたくさん持って人生に立ち向かってほしいとエールを送りました。

卒業祝賀会では豪華な料理を食べながら、先生を囲んだり、友達同士の談笑、お祝いに後輩が駆けつけたりと、会場のあちらこちらで笑顔の花が咲きました。恒例の学科ごとの記念撮影も順調に進み、三本締めでお開きとなりました。





会場のあちらこちらで笑顔



の花…盛大に卒業祝賀会



ひろばのページ

|47期写真技術科A組クラス会 ≡

卒後44年目の春、築地キャピタルホテルに於いて、初めてのクラス会を開催致しました。クラスの有志から始まった話でしたが、やっと実現する事ができました。

44年目の再会は15名の参加者でしたが、和やかに進み3時間の会はあっという間に終わりました。できれば同期会をと思っておりましたが、先ずはクラス会からということで次に繋がって行けばと思っております。次回



卒大47期技術科A組同窓会 銀座4+2 78476 2016.4.17

に備えて同期の方々の情報をお寄せ下さい。

ご連絡先
黒川 真紀(皆川)
090-4422-4834

|35期写真工業科・製版技術専攻同窓会 ≡

卒業して56年、喜寿を迎えた仲間が平成28年12月2日、銀座8丁目「久保田」で再会しました。6名の参加と寂しかったのですが、それでも新潟長岡在住の山



内君の取引先である朝日酒造の直営店。銘酒と郷土御膳で青春を懐古しました。
宮内 辰蔵(35期)

|平成29年度入学式 ≡

2017年4月3日、厚木市文化会館大ホールにて、平成29年度の入学式が挙行されました。芸術学部にて694名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。



|土屋下宿の会 ≡

私たち「土屋下宿の会」の同窓生39期～41期10名が参加、土屋下宿の会 in 静岡を開催。平成28年6月16～17日、三島駅から伊豆半島をめぐる旅でした。文学と写真の歴史を訪ね、川端康成が小説「伊豆の踊り子」を執筆した宿の露天風呂で旧交を温め、天城峠を越え、営業写真の元祖「下岡蓮杖」を生んだ開国の町下田では蓮杖記念館・蓮杖記念碑を見学、海辺の座敷で地金目の昼食。相模湾に沿って北上、来年の再会を願って熱海駅で解散。「幕末の写真」と「伊豆の踊り子」の幻影を楽しんだ伊豆の旅でした。

武智 幹夫 (39期)



|34期写真工業科同期の集い ≡

平成28年12月10日(土)、恒例になっております写大34期(工)の同期会ですが、今回も新宿三丁目の「木曾路」にて開催いたしました。

同年には佐藤利二君と深沢国雄君とが逝去されたため、会は黙祷から始まりました。それでも12名の出席を得て、賑やかに昔話に花が咲きました。ただ、そうは言っても、お互いにそれなりに歳をとっており、特に足腰と耳目の管理が重要との言葉に納得の一同でした。

なお次回も、相澤忠勝・末次祥宏の両氏を幹事役として本年12月9日(土)に開催いたしますが、会場を新宿東口のライオン会館「安具楽」に変更の予定ですので、どうぞご注意下さい。

川名 晴美(34期)



東京写真短期大学 写真工業科 第34期生 平成28年度 同期の集い (新宿 木曾路) 2016.12.10

在学生は、開催当時の学年で表記しています。

展示会・出版の記録

展：展示会名 作：作者 所：場所 期：会期



展：Flowers
所：写大ギャラリー
期：2016.11.7-12.21



展：土門拳の原点
1935-1945
所：写大ギャラリー
期：2017.1.23-3.24



展：思わぬ壺
作：嶋田 篤人(86期写真学科)
所：Alt_medium
期：2016.11.3-11.27



展：moving still life
～夜光性静物観察記～
作：山下 晃伸(博士学位)
所：アーツスペース銀座ワン
期：2016.12.17-12.25



展：写真へのメモランダム
作：篠田 優(88期写真学科)
所：Alt_medium
期：2017.1.5-1.15



展：ふる里悠々
武蔵野日記Part II
作：田沼 武能(24期写真技術科)
所：ポートレートギャラリー
期：2017.1.6-1.18



展：meta
作：喜多村 みか
(80期写真学科)
所：Alt_medium
期：2017.1.19-2.12



展：とりくま展
作：鳥海 星奈(写真学科2年生)、
熊谷 優香(写真学科2年生)
所：Space Sprout
期：2017.2.23-2.28



展：田沼武能肖像写真展
時代を刻んだ貌
作：田沼 武能
(24期写真技術科)
所：練馬区立美術館
ふるさと文化館分室
期：2017.2.23-4.9



展：本城 直季
TOKYO/KYOTO 1/2展
作：本城 直季
(79期前期博士課程)
所：1/2GALLERY
期：2017.3.1-3.27



展：echo
作：内藤 明(47期写真技術科)
所：Alt_medium
期：2017.3.2-3.14



展：ノスタルジックな道 ルート66
作：桜井 秀(34期写真技術科)
所：キャンオンオープンギャラリー1
期：2017.3.14-4.24



展：ポストロックと麻醉銃
作：大泉 咲(写真学科2年生)、
外山 奏理(デザイン学科2年生)
所：GALLERY LIPP
期：2017.3.28-4.2



展：かつて、まなざしの先に
作：菅泉 亜沙子 (88期写真学科)
所：Alt_medium
期：2017.4.30-5.7



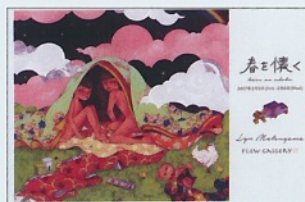
展：なつかしい昭和時代
鈴木 育男
(31期写真技術科)
出版社：国書刊行会



縛りプレイ英姫記
ぎょう(マンガ学科)
出版社：KADOKAWA



女神のまつげ 第1巻
駿河比呂(PN)(91期マンガ学科)
出版社：講談社



展：春に懐く
作：末山 りん
(90期デザイン学科)
所：フレュー・ギャラリー
期：2017.3.3-3.8



展：あのこ、かわいいね。展 その2
作：おかだひろみ、せきまり、たじままい、
飛田 結衣、ひらむきとも、福島 潮里(91期デザイン学科)
所：代々木アートギャラリー
期：2017.3.8-3.13

訃報

衷心よりお悔み申し上げます。

佐藤 龍彦 (28期・写真技術科)

小林^(岡村)江里子 (56期・写真技術科)

五味 彦一 (29期・写真工業科)

田村 智子 (61期・写真技術科)

藤枝 英一 (38期・写真工業科)

石本 楽 (81期・映像学科)

関根 真之 (40期・写真工業科)

(敬称略)

掲載記事の募集

「ひろば」に掲載する記事を募集します。エピソードや同期会・クラス会(規模の大小は問いません)など、楽しい記事をお待ちしております。テキスト原稿・集合写真などを、メールもしくは郵送で同窓会事務局までお送り下さい。紙面編集の都合上、原稿は広報委員会で調整させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。よろしくお願い申し上げます。

同窓会名簿の販売について

東京工芸大学同窓会名簿創立90周年記念版を販売します。

2016年8月に予約販売したものです。販売価格5,000円(送料込み)

ご希望の会員は事務局に申し出ください。事務局より購入方法をご案内します。

ただし、個人情報保護のため、販売は会員に限らせていただきます。

販売刷数は僅かですので、受付は先着順とし、無くなり次第終了させていただきます。

編集後記

卒業式の写真の整理をしていると、本当に笑顔の写真が多いことに気づきました。学位授与式の義江学長の式辞で出てきた「卒業生の皆さんの晴れ姿を見るこの日が教職員にとって一番幸せな日です。」という言葉が象徴するかのよう

でした。卒業生の皆さんは、生涯同窓会の仲間です。今後、同窓会の催しなどを企画した時には、是非お気軽にご参加下さい。

上田 耕一郎(75期)